



ブルーインパルスを見上げる人々（2024年3月18日 珠洲市）

れきはくの 文化財レスキュー

令和7年度夏季特別展

「未来へつなぐー能登半島地震とレスキュー文化財ー」によせて



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

文化財レスキューとは



珠洲市内の寺院で行われたレスキューの様子

令和6年能登半島地震被災文化財等救援事業（通称・文化財レスキュー事業）は、地震や大雨で被災した家屋などに残された文化財を対象に、救出・応急処置・一時保管を行う事業である。令和6年能登半島地震の発災後、同年2月から、国の機関である文化財防災センターと、県内外の組織との協力による本格的な文化財レスキュー事業がスタートし、これまでに多くの文化財が救出された。そして、いまなお救出が続いている。

〔 凡 例 〕

- 本書は、令和7年（2025）7月26日（土）から8月31日（日）までを会期とする石川県立歴史博物館令和7年度夏季特別展「未来へつなぐ一能登半島地震とレスキュー文化財」の開催にあたり、これまで当館が関わった文化財レスキューの活動内容をまとめたものである。
- 同展覧会にて展示を行った被災文化財を中心に、資料解説を付した。各解説の執筆は当館学芸員一同が分担して行った。
- 表紙・裏表紙・p.8-9の風景写真は坂健生より提供を受けた。資料写真のうち資料番号1～7・9～11は山崎茂樹が撮影した。それ以外の写真は当館職員が撮影した。

能登半島地震における文化財レスキューの取り組み

2024年元日に能登を襲った大地震は人命をはじめ大きな被害をもたらしました。人命を守り、被災した住みかを再建することが喫緊の課題であることは言を俟ちません。一方で、これまで受け継がれてきた多くの文化財が、こうした大災害によって失われることを危惧せずにはおれませんでした。

地震から7日目の1月7日、友人でもある文化庁の参事官から自宅に連絡があり、能登半島地震での被災した文化財のレスキューを始めるにあたって被災状況の把握と地元石川での取りまとめ体制構築の手順等について意見を求められました。自宅では状況を把握できないこともあり、一昨年来能登に調査に入っている石川県近世史料編さん室の室長を紹介し、同時に情報共有を始めました。

日常とは異なる災害時に被災した文化財をいかに救い出すかは博物館にとって大きな使命と考え、1月11日から県の文化財課との協議を開始しました。しかしこうした事態に迅速かつ的確に対応する体制は、残念ながら石川県では未整備の状態でした。

その後、2020年に設立された国立文化財機構の文化財防災センター、県の文化財課、能登文化財保護連絡協議会等の方々とさまざまに検討を重ね、2月13日、文化庁、国立文化財機構、石川県主催で合同会議が開催され、文化財防災センターを核にこの度の地震による被災文化財救出体制が構築されました。

歴史博物館では、これに先立って展覧会等でお世話になった能登を中心とする文化財所蔵者の方々に文化財の被災状況の確認を開始し、ついで文化財防災センターを司令塔とした文化財レスキューに積極的に参加し、かつ被災資料の収蔵・整理の一端を担って来ました。今後もこうした活動を積極的に進めていこうと思っています。

夏季特別展「未来へつなぐ一能登半島地震とレスキュー文化財」は、一年半に及ぶ文化財レスキュー活動の中間報告であり、今後の課題を見極めようとするものです。

石川県立歴史博物館館長 藤井 譲治

2024年1～4月 文化財レスキューの初動

能登半島地震発災の翌月、文化財レスキュー事業が本格的に始まった。
文化財レスキューは当館にとって初めての経験であり、また体制が整っていなかった初期段階では、
全くの手探り状態であった。そんな中、現場では様々な被災した物品との出会いの連続で、
対象となる文化財・資料は多岐にわたった。

主なレスキュー記録



① [2024年2月16日] 志賀町個人宅 現地調査



② [2024年3月6日] 内灘町神社 現地調査



③ [2024年4月19日]
羽咋市神社 文防レスキュー参加



④ [2024年4月20日] 輪島市文化財建造物 文防レスキュー参加

現地調査 29件

レスキュー 8件



資料

1. シオオケ(潮桶)

昭和戦前期まで使用

昔の道具があるというご相談を受け、依頼者宅に到着すると、傾いた小屋の中に複数の民具が集められていた。能登に特徴的な楕円形の肥桶に目が留まり、肥料用かと確認すると、海水運搬用という想定外の説明をされた。戦前まで漁港でアブラツノザメを大量に買い、海水で煮て溶かし、その後、土と混ぜて発酵させ水田に撒いたという。一世代下の住人に後日、聞き取りをすると、土肥にした経験はないが、以前はよくサメの内臓を撒いたという。能登と加賀とは施肥技術に大きな違いがみられるが、能登のなかでも各地で独自の技術が伝来していた可能性がある。能登一円を対象とする地道な聞き取りが今後望まれる。

救出地: 志賀町東小室

2024年 2月16日・3月11日 現地調査
6月 6日 レスキュー
2025年 6月 5日 追跡調査



2. 珠洲叩壺・珠洲刻文叩壺

鎌倉時代末期～南北朝時代(14世紀)

これらの珠洲焼の壺は、所有者の実家にあったが、今回被災したため、金沢市内の自宅に持ち帰っていたものである。所有者の母親がこの壺の行く末を気にかけていたとことで、当館に持ち込まれた。入手の経緯をうかがうと、1993年(平成5)2月7日の能登半島沖地震の際に、所有する珠洲市内の山林から出土したものであり、30年以上前に能登で起きた地震を物語る資料でもあることが判明した。これらの壺には、人骨が入っていたとことであり、蔵骨器として使われたと判断できる。鉢片が付属していたが、地震による家財の散乱を受け、その所在が不明となっている。

救出地: 珠洲市三崎町

2024年 2月 25日 応接
3月 4日 保管



3. 岩ノリ採りの道具

昭和20年代製作

「亡き父が作った竹細工がある。資料になるなら」とお声かけいただいた。所有者が暮らす笹波地区は、研究者の間では能登を代表する竹細工の生産拠点として早くから知られていたが、その現物が体系的に収集されることはなかった。公費解体に伴い消滅の恐れがあることから、当館では震災以後、関連資料の収集に努めている。資料は主に岩ノリの採取・加工に用いた竹細工一式である。志賀町笹波・前浜両地区では戦前期まで全戸が副業として竹細工を営んだ。戦後、捕鯨会社への男性の就職が一般化することで、同業は急速に廃れ、現在、笹波では1名のみが技術を伝える。

救出地: 志賀町笹波

2024年 4月 11日 現地調査・レスキュー
10月 10日 レスキュー



2024年5～7月 寺社・個人宅などレスキュー本格化

当館に被災情報がいち早く届いたのは、寺社の文化財であった。
折しも令和5年夏に特別展「いしかわの霊場」を開催したばかりで、展覧会を通して生まれた縁が、
文化財の危機を伝えてくれた。さらに、発災直後は現地調査が困難であった奥能登での活動も
次第に実施可能となり、レスキューが本格化した。

主なレスキュー記録



① [2024年5月9日] 輪島市神社 文防レスキュー参加



② [2024年5月30日] 珠洲市寺院 文防レスキュー参加



③ [2024年7月1日]
珠洲市寺院 文防レスキュー参加



④ [2024年7月31日] 輪島市個人宅 レスキュー

現地調査 10件

レスキュー 22件

資料



4. 林景村筆「猿猴図額」

昭和時代

中能登町能登部の個人宅からは、被災家屋の解体前に、所有する美術資料の取り扱いについて相談が寄せられた。本作はその内の一点で、松に登る手長猿を描く。当初、作者の「景村」は不明であったが、戦前の名鑑に能登部在住の画家「林景村」（明治40年（1907）生）の存在が認められ、これまで全く知られていなかった能登で活躍した画家の貴重な作例であることが判明した。また現地での聞き取りから、申年生まれの所有者に因んだ主題であることが分かり、さらには写真を能くした所有者の父がまとめたアルバムに、絵筆をとる画家本人の姿が確認できた。

救出地：中能登町能登部

2024年 3月 22日 現地調査
7月 23日 レスキュー

5. 旧宗玄家襖下張り文書

江戸時代以降

宗玄酒造創業者の本家宅だった来歴を有する家屋の襖からは、江戸時代以降の古文書が発見された。襖の補強のため、内部に張り重ねられた、いわゆる下張り文書である。発災から3ヶ月後にご相談のあった「倒壊した家屋の襖から墨で書かれた文字が見える」という情報と、後日郵送いただいた襖の画像を頼りに、現地調査に伺った。そこで初めて「宗玄村忠左衛門」の文字が見え、残存数が少ない江戸時代の珠洲郡の村役人文書を含むことが分かった。数回の整理作業を経て、船の売券や産物の津出願など、沿岸部の生業に関するものが多いという傾向が見えてきている。

救出地：珠洲市宝立町

2024年 4月 23日 現地調査・レスキュー
5月 15日 レスキュー
9月 12日 現地調査
2025年 5月 14日 現地調査



石川県指定文化財

もくぞうあみださんぞんぞう

6. 木造阿弥陀三尊像のうち

あみだにょらいざぞう

阿弥陀如来坐像

平安時代（12世紀）

曹源寺に客仏として安置されていた阿弥陀三尊像は、石川県下に残る院政期彫刻のうちに規模・出来映えとも屈指の遺品といえる。中尊の阿弥陀如来像は倒壊した本堂から脇侍や本尊、過去帳等とともに救出された。地震により屋根の下敷きとなり、がれきの隙間に入ったため圧壊を免れたが、体部から分離した脚部や手は震災の凄まじさを物語っている。寺社の資料は、所蔵者はもちろん、地域住民や崇敬者など、そこを取り巻く多様な人々をつなぐ拠り所である。傷み壊れるたび、次代に残そうとした人々がいたからこそ今日に伝わった。いま、その継承は我々に託されたのである。

救出地：珠洲市長橋町 曹源寺

2024年 3月 13日 現地調査
7月 1日 レスキュー



※画像は地震前の2023年6月撮影



震災後を撮り続ける一写真家・坂健生が見た能登の日々ー

（展示室内にて上映した動画より抜粋／解説：坂健生）



右上／珠洲市内で一番最初に咲く「谷崎の桜」。珠洲市の人々にとって特別な桜が震災後に初めて咲いた（2024年4月1日 珠洲市谷崎）
右下／地震で隆起した海岸が白くなっている（2024年6月1日 珠洲市大谷町）

左／震災後、能登の海がさらに蒼く輝いて見えた（2024年7月27日 能登町恋路）

2024年8～11月 公費解体に伴い増加する個人宅の調査

夏場以降、順番待ちとなっていた公費解体が進み、蔵や納屋の資料を見に来てほしいという個人宅からの相談が増加した。そのような中、9月21日に発生した記録的豪雨はさらなる被害をもたらすとともに、現地での活動を困難とした。

一方で、今回の震災を機に新しく確認された文化財の調査や整理が行われたこともこの時期の特徴であった。

主なレスキュー記録



① [2024年8月29日] 羽咋市曳山倉庫 レスキュー参加



② [2024年9月10日] 七尾市寺院 絵馬・版木の調査



③ [2024年10月11日] 珠洲市寺院 仏像の調査



④ [2024年10月28日] 歴史資料ネットワーク主催の下張り文書はがしワークショップ

現地調査 19件

レスキュー 17件

珠洲市
七尾市
羽咋市
金沢市

資料



7. 堂端家文書

江戸時代～昭和時代

珠洲市蛸島町で網元を務めた堂端家伝来の資料群には、名望家・堂端四兵衛に関する資料が含まれる。石川県立歴史博物館と「いしかわ歴史資料保全ネットワーク(いしかわ史料ネット)」の共同で、能美郡川北町の避難先に現地調査に伺い、近代の漁業経営や県会などに関する文献など1,000点以上の資料の存在が確認された。これらは後日当館に運び込まれ、8月からは資料整理が始まった。資料は膨大な数に上り、全容は未だつかめていない。資料整理の途中である現段階でも堂端四兵衛宛ての犬養毅の書簡など興味深い資料は続々と発見されている。

救出地: 珠洲市蛸島町(能美郡川北町へ避難)

2024年 6月12日 現地調査
6月30日・8月2日 レスキュー
8月29日 資料整理を開始

8. 木造薬師如来坐像

享禄元年(1528)

高照寺の本尊・薬師如来像は、ここ数十年以上ゆくえ知れずであった。昨年4月、被災した他の仏像の応急処置を行っていた修復師が、かつて本尊が安置されていた厨子の中を試みに覗いてみるとバラバラになった仏像のパーツを発見。接合すると、薬師如来像が姿を現した。像の底面には墨書銘が記され、制作年代が室町時代の享禄元年(1528)であることが判明した。さらに作風や構造から「院派仏師」という仏師系統に属する人物により制作されたと考えられる。本像の存在は県内における院派仏師の動向を探るうえでも重要である。

調査地: 珠洲市上戸町 高照寺

2024年 4月29・30日
修復師が部材を発見・接合
10月11日 調査・写真撮影

9. 輪島漆器の図案と見本送付用木箱

明治時代～昭和時代前期

石川県出身の政治家の書軸が当館に持ち込まれたことが、本レスキューのきっかけだった。話を伺った結果、輪島漆器の元職人のご実家には上記の書軸以外にもまだ資料があることが判明、早速調査に赴いた。かつての輪島漆器の職人は、各人により取引先(地域)が決まっていたという。それを示すように、そのお宅からは三重県に漆器の見本を送付するための木箱や、戦前に三重県で発行されていた新聞などが救出された。石川県の伝統産業の代表である輪島漆器だが、流通の実態についてはいまだ研究の余地が残されている。本資料はその解明の一助となるものであるといえよう。

救出地: 輪島市河井町

2024年 11月 7日 現地調査
11月22日 レスキュー



2024年12月～ 発災から1年を経て 現在も続くレスキュー

発災から一年半が経過した今なお文化財レスキューは続いている。活動の存在が伝わっていない、あるいは文化財として認識されていないといった理由から救出が及んでいない歴史資料もあるはずだ。

それらを救うためにも、文化財レスキューの裾野を広げていくことが課題である。また、この能登半島地震の記憶を未来へ伝えるための記録を如何に収集し、継承していくかという課題とも向き合っていかなければならない。

主なレスキュー記録



① [2024年12月3日] 輪島市個人宅 現地調査



② [2025年4月15日] 輪島市 避難所資料の収集



③ [2025年5月16日] 輪島市個人宅 現地調査



④ いしかわ歴史資料保全ネットワークの協力による文書整理
(2024年8月から月に1回ほどのペースで実施)

現地調査 21件

レスキュー 21件

※ 2025年6月末時点の件数

4
金沢市

資料

10. 漆掻きの道具と漆木買入帖

昭和35年(1960)頃まで使用

農具について相談を受け向かった先で、思いがけず出会ったのは漆掻きの資料だった。明治34年生まれの前代は漆掻き職人であり、県内のみならず富山県、新潟県などで活動した。雇われではなく、自分で漆の木を探して持ち主と購入の交渉をし、掻いた漆は輪島の塗師屋と直接取引していた。漆掻きは繊細な作業であり、木の皮を剥ぐにも、傷をつけるにも専用の道具が要る。能登にはかつて多くの漆掻きがあり、輪島の漆器生産を支えていたが、その道具や活動に関する研究は少ない。この救出が今後さらなる資料の掘り起こしにつながることを願う。

救出地: 輪島市門前町和田

2024年 12月 3日 現地調査
2025年 4月 30日 レスキュー

Topic. 文化財レスキューのその後

被災文化財の一時保管

救出された文化財は、主に能登で臨時に設けられた一時保管場所で保管されている。文化財防災センターや各市町で保管場所が確保されているが、当館でも被災地からの要請に応じて資料をお預かりしている。

救出資料は地震や水害によって損壊していることが多く、発災から救出まで時間が経過した場合には害虫やカビの被害も受けた。保管中に被害が広がらないように、破損箇所の応急処置、害虫やカビの防除を行う必要がある。救出資料の返却にはまだ時間がかかりそうであるが、保管環境を万全に整え、所有者の元へ無事にお返しできるよう努めていきたい。

被災文化財の活用に向けて

レスキューした歴史資料を活用するには、一つひとつに表題をつけるなどの整理作業が必要だ。今回の震災後、当館では江戸時代～昭和初期頃の古文書を多くレスキューした。当館の力では整理しきれない分量の古文書群については、いしかわ歴史資料保全ネットワーク(略称: いしかわ史料ネット)の協力を得て、地元の研究者や学生たちが整理を行っている。月に1回程度の作業により、整理を終えた資料は数千点に及ぶ。

資料整理活動を継続的にこない、活用できる資料の一つでも増やすことが、文化財をレスキューした我々の責務でもある。

11. 大屋小学校避難所資料

令和6～7年(2024～2025) 作成・使用

最後の避難所が閉鎖されたこと知り、私たちは大屋小学校に向かった。避難所内の掲示物や貼紙をいただけるよう交渉し、運営を担ったNPOのスタッフが対応してくれた。プライバシーの問題もあり、避難所生活を写真などで記録することは難しい。そこで避難所の貼紙類を集め、災害を伝える資料として残したいと考えた。子どもが書いた「トイレはきれいにしましょう」の貼紙、食堂に置かれた「おかえりなさい」の表示、2台の洗濯機を判別する「うさぎ」と「かめ」の看板、激励の鯉のぼりや千羽鶴。私たちが知らない避難所の日常がそこにあった。

収集地: 輪島市立大屋小学校避難所

2025年 4月 15日 搬出



石川県立歴史博物館の発災からの活動状況

2024年1～4月

文化財レスキューの初動

期日	曜日	活動内容
1月	1日 月	発災 博物館本館の被害確認(被害ほぼ無し)
	16日 火	ホームページ、Xで被災文化財相談の受付告知開始
	17日 水	珠洲市 個人より被災資料一時保管のため直接持ち込み(初の受入れ)
2月	13日 火	文化庁、国立文化財機構、石川県、合同会議開催
	15日 木	宝達志水町 個人宅 レスキュー
	16日 金	志賀町 個人宅 現地調査(2件)、1軒は破損激しく救出断念
	20日 火	志賀町 個人宅 現地調査
	21日 水	羽咋市 神社 文化財防災センター(以下、文防)現地調査参加
	25日 日	輪島市 寺院 文防現地調査参加
	28日 水	珠洲市 寺院(4か寺) 文防現地調査参加 七尾市寺院など レスキュー予備調査
	29日 木	七尾市寺院など レスキュー予備調査
3月	4日 月	珠洲市 個人より珠洲焼を受け入れ
	5日 火	輪島市、穴水町 寺院 文防現地調査参加
	6日 水	輪島市 神社 文防現地調査参加 内灘町 神社 同町教委の依頼で現地調査
	7日 木	七尾市 寺院 文防現地調査参加
	11日 月	志賀町 個人宅(4件) 現地調査
	13日 水	珠洲市 寺院 文防現地調査参加
	14日 木	宝達志水町 個人宅 文防現地調査参加
	22日 金	中能登町 個人宅 現地調査
	27日 水	能登町 寺院 文防現地調査参加
	28日 木	七尾市 神社 文防現地調査参加
4月	30日 土	能登町 個人宅 文防レスキュー参加
	3日 水	柳田収蔵庫復旧作業
	4日 木	七尾市 寺院 文防現地調査参加
	11日 木	志賀町 個人宅 現地調査・レスキュー 志賀町 個人宅 現地調査 内灘町 個人宅 現地調査
	12日 金	七尾市 寺院 文防レスキュー参加
	16日 火	七尾市中島町 レスキュー予備調査
	17日 水	七尾市能登島町、田鶴浜町 レスキュー予備調査
	18日 木	輪島市 寺院 文防レスキュー参加
	19日 金	羽咋市 神社 文防レスキュー参加
	20日 土	輪島市 文化財建造物 文防レスキュー参加
	23日 火	珠洲市 個人宅 現地調査・レスキュー
	27日 土	七尾市 個人宅 現地調査
	28日 日	中能登町 個人宅 現地調査

2024年5～7月

寺社・個人宅などレスキュー本格化

期日	曜日	活動内容
5月	9日 木	輪島市 神社 文防レスキュー参加
	10日 金	中能登町 個人宅 文防レスキュー参加
	14日 火	柳田収蔵庫復旧作業(車両故障のため引き返す)
	15日 水	珠洲市 個人宅(2件) 文防レスキュー参加 志賀町 レスキュー予備調査
	16日 木	能登町 寺院 文防レスキュー参加
	17日 金	七尾市 寺院 現地調査 珠洲市 個人宅、寺院 現地調査 珠洲市 公民館 避難所関係資料収集
	21日 火	志賀町 個人宅 現地調査
	23日 木	輪島市 寺院 文防レスキュー参加
	24日 金	志賀町 現地調査、レスキュー予備調査
	29日 水	志賀町 レスキュー予備調査
	30日 木	珠洲市 寺院 文防レスキュー参加
6月	31日 金	羽咋市 寺院 文防レスキュー予備調査
	5日 水	穴水町 レスキュー予備調査
	6日 木	志賀町 個人宅(2件) レスキュー
	12日 水	川北町 個人宅 現地調査
	13日 木	志賀町 個人宅 レスキュー
	14日 金	柳田収蔵庫復旧作業
	18日 火	志賀町 神社、個人宅 現地調査 輪島市 神社 仏像を一時保管場所から歴史博物館へ移送
	19日 水	七尾市 寺院 文防レスキュー参加 穴水町 レスキュー予備調査
	20日 木	七尾市 寺院 文防レスキュー参加
	21日 金	七尾市 寺院 文防レスキュー参加
	25日 火	輪島市 現地調査
7月	26日 水	羽咋市・中能登町 レスキュー予備調査
	27日 木	珠洲市 現地調査、レスキュー予備調査
	30日 日	川北町 個人宅 レスキュー(珠洲市からの避難資料)
	1日 月	珠洲市 寺院 文防レスキュー参加
	2日 火	珠洲市 寺院 文防レスキュー参加
	3日 水	珠洲市 一時保管施設 文防レスキュー参加
	4日 木	珠洲市 寺院 文防レスキュー参加
	9日 火	志賀町 個人宅 文防レスキュー参加
	19日 金	当館ギャラリーで速報パネル展「令和6年能登半島地震によせて」を開催
	23日 火	珠洲市 一時保管場所 環境整備 中能登町 個人宅 レスキュー
	26日 金	七尾市 個人宅 現地調査
	31日 水	輪島市 個人宅(2件) レスキュー

広報誌『石川れきはく』No.146～151掲載の「特集 令和6年能登半島地震によせて」の活動状況の一つにまとめたものである。広報誌では、No.146～149では当館学芸員のレスキューに参加しての所感を、No.150からはレスキューされた文化財の歴史的意義を紹介している(当館ホームページにて公開中)。

2024年8～11月

公費解体に伴い増加する個人宅の調査

期日	曜日	活動内容
8月	2日 金	川北町 個人宅 レスキュー(珠洲市からの避難資料)
	6日 火	珠洲市 一時保管施設 文防レスキュー参加
	7日 水	珠洲市 一時保管施設 文防レスキュー参加
	8日 木	珠洲市 一時保管施設 文防レスキュー参加
	9日 金	珠洲市 一時保管施設 文防レスキュー参加
	29日 木	羽咋市 曳山倉庫 レスキュー参加 いしかわ歴史資料保全ネットワーク(以下、いしかわ史料ネット)の協力による被災古文書の整理作業
	30日 金	金沢市 神社 現地調査
9月	9日 月	志賀町 神社 現地調査
	10日 火	七尾市 寺院 現地調査
	11日 水	金沢市 個人宅 現地調査(輪島市からの避難資料)
	12日 木	珠洲市 個人宅 現地調査 かほく市 個人宅より被災資料受入れ
	21日 土	七尾市 個人宅 レスキュー
	22日 日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	26日 木	七尾市 個人宅 現地調査
10月	8日 火	志賀町 個人宅 現地調査
	10日 木	珠洲市 個人宅(2件) レスキュー 志賀町 個人宅 レスキュー
	11日 金	珠洲市 寺院 文防現地調査参加
	20日 日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	23日 水	七尾市 個人宅 現地調査
	24日 木	輪島市 個人宅 文防現地調査参加
	28日 月	歴史資料ネットワーク主催「下張り文書はがしワークショップ」開催(当館職員対象)
	29日 火	七尾市 個人宅 現地調査
	31日 木	珠洲市 個人宅 現地調査
11月	1日 金	輪島市 個人宅 現地調査
	6日 水	輪島市 個人宅 現地調査 能登町 個人宅 現地調査
	7日 木	輪島市 個人宅 現地調査
	9日 土	七尾市 個人宅 レスキュー
	12日 火	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	13日 水	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	15日 金	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	17日 日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	20日 水	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	22日 金	輪島市 個人宅 レスキュー 輪島市 個人宅 現地調査
	23日 土	輪島市 寺院 被災資料調査
	25日 月	金沢市 神社 レスキュー
	28日 木	志賀町 個人宅 現地調査

2024年12月～

発災から1年を経て 現在も続くレスキュー

期日	曜日	活動内容
12月	3日 火	志賀町 個人宅 レスキュー 輪島市 個人宅 現地調査
	4日 水	輪島市 寺院 現地調査
	7日 土	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	8日 日	野々市市 個人宅 現地調査(珠洲市からの避難資料)
	9日 月	金沢市 個人宅 現地調査(穴水町からの避難資料)
	10日 火	穴水町 寺院 文防現地調査参加
	11日 水	能登町 個人宅 文防現地調査参加 能登町 個人宅 現地調査
	12日 木	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
	13日 金	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
	16日 月	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
	17日 火	七尾市 個人宅 レスキュー
2025年	23日 月	珠洲市 個人宅 レスキュー
	1月 14日 火	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	15日 水	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	16日 木	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	17日 金	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
	22日 水	中能登町 個人宅 現地調査
	23日 木	輪島市 個人宅 レスキュー
	24日 金	穴水町 寺院 現地調査
	25日 土	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	30日 木	野々市市 個人宅 現地調査(輪島市からの避難資料)
2月	3日 月	輪島市 個人宅 現地調査
	9日 日	いしかわ史料ネット主催「下張り文書はがしワークショップ」開催(いしかわ史料ネット会員対象)
	21日 金	輪島市 一時保管施設 資料調査
	23日 日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	25日 火	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
	26日 水	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
	28日 金	中能登町 一時保管施設 資料調査参加
3月	10日 月	七尾市 個人宅 文防レスキュー参加
	11日 火	七尾市 個人宅 文防レスキュー参加
	12日 水	七尾市 個人宅 文防レスキュー参加
	18日 火	金沢市 個人宅 現地調査(輪島市からの避難資料) 宝達志水町 個人宅 一時保管資料返却
	28日 金	金沢市 個人宅 レスキュー(輪島市からの避難資料)
4月	15日 火	輪島市 資料館 現地調査
	16日 水	穴水町 寺院 現地調査
	17日 木	輪島市 個人宅 レスキュー
	26日 土	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	28日 月	野々市市 個人宅 レスキュー(珠洲市からの避難資料)
	30日 水	輪島市 個人宅 現地調査／個人宅 レスキュー
5月	2日 金	珠洲市 某町集会所 現地調査
	10日 土	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
	14日 水	珠洲市 個人宅 現地調査
	16日 金	輪島市 個人宅 現地調査
	29日 木	金沢学院大学の協力による被災文化財X線調査(輪島市からの避難資料)
6月	20日 金	輪島市 個人宅 レスキュー 志賀町 神社 現地調査
	28日 土	穴水町 個人宅 現地調査
	29日 日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業



震災から1年後の見附島（2025年1月1日 珠洲市）

石川県立歴史博物館 令和7年度夏季特別展

「未来へつなぐー能登半島地震とレスキュー文化財ー」

会期 令和7年7月26日(土)～8月31日(日)
会場 石川県立歴史博物館
主催 石川県立歴史博物館
特別協力 北國新聞社
協力 いしかわ歴史資料保全ネットワーク(いしかわ史料ネット)
後援 国立文化財機構文化財防災センター、NHK金沢放送局、石川市長会、石川県町長会

れきはくの文化財レスキュー

令和7年度夏季特別展
「未来へつなぐー能登半島地震とレスキュー文化財ー」によせて

発行日 令和7年7月26日
編集・発行 石川県立歴史博物館 〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
TEL. 076-262-3236 FAX. 076-262-1836
印刷・製本 高桑美術印刷株式会社
デザイン 越野あゆみデザイン室